起工式のいわれ～念仏を生活習慣として

●仏式の起工式

今年、万行寺では、古くなった事務所を解体し、あらたに、礼拝施設のついた屋舎を建てる計画があります。
10月には、起工式をお勤めする予定です。
仏式の起工式や上棟式はあまり知られていませんが、一般には、地鎮祭といわれる儀式と相対する儀式です。
準備は、ご本尊の阿弥陀如来をご安置して、お仏飯とお花とお供え物を用意するだけ、あとはお寺と業者にその旨を伝えたら完了です。

仏式は神式とどう違うのでしょう?

式の中で、住職が申しあげる「表白(法要を勤める意味を申し述べること)」には、

本日ここに、諸々の因縁調い、
敬しく阿弥陀如来の尊前を荘厳して、起工式を営みます。

心静かに思いますと、まことの「さとり」を開いた阿弥陀如来は、道理に暗く、自己中心の判断を日々続ける私たち無明の凡夫を、無量の智慧と慈悲とをもって照らし、育て、金剛の信心、すなわち、道理に気づく心を恵んで、さわりなき念仏の人生を歩む一道を示してくださいました。
よくよく考えますと都合の悪いことが起こらないようにと願うのは凡夫の感情でありますが、都合の悪いことの起こらない人生はありません。
親鸞聖人は、
「信心の智慧を恵まれれば、
天の神･地の祇も、
念仏の信心の人を敬伏し、
魔界･外道も障碍することはありません。
罪悪も業報を感ずることがなくなり、諸善もおよぶことのない無碍の一道を歩みます」(『歎異抄』意趣)
とお示しくださいました。
こうして、起工式の仏縁に遇うみなさま方は、願わくは深く因果の道理をわきまえて、都合の悪いことをも超えていく、無礙の一道を歩み、諸事滞りなく完了して、慈悲の光あふれる新屋舎の建立成就しますことを仏弟子 万行寺　釋静芳
敬って申しあげます

と読み上げ、そこには、「都合の悪いことが起こらないようにと願うのは凡夫の感情(凡情)」だとあります。

●私たちの願い、仏さまの願い

しかし、浄土真宗の起工式(上棟式)は凡情を神仏にお願いする式ではありません。
仏さまのおさとりの智慧のおみ法(仏法)を聞いて生きる者は、そのような「凡夫の感情(身勝手な思い)」を抱きながらも、心の深いところでは「都合の悪いことの起こらない人生はありません」と思いとって、阿弥陀如来さまと力強く日暮しをするのです。

私たちは、先行きの見えない未来に不安を同じ、つらい人生に直面する時、この世の道理を超えて、眼に見えない力を持った存在(たとえば神さまなど)を畏れ敬い、アテや頼りにすることで、少しでも思い通りになるように、この身を処していこうとします。
本気なのか、気休めなのか、その実効性の期待度は人さまざまですが、人生の節目に行われる色々な儀礼儀式も、一般的には同じような意味合いで行われています。

私たちの願いは、
「拝んだり祈ったりして、神さまに、私の思い通りになるようにしてください。」
というものですが、
阿弥陀如来の願いは、
「この世には、自分の都合を満たしてくれるような存在(自在神)は、どこにもいないのですよ。
どうかその道理に、深く目を覚まして、この人生を確かなもの(念仏を生活習慣として目覚める教え)をよりどころにして、歩んでください。」
というものです。
この阿弥陀如来の本願をよりどころにすることは、お札やお守り、破魔矢などを手放せないまま、色々な迷信やまじないに縛られて生活せずとも、お念仏を生活習慣として日々過ごせれば、大丈夫だということです。

●教えをよりどころに～日のよしあしや占いを超えて

そして、そのことは、浄土真宗の門徒といわれた私たちのご先祖が、日を善し悪しや方角などを気にせず、迷信や占いをより所にせずに、確かで豊かな人生を歩まれたことで証明済みのことです。
このような理由で、仏式には「おまじない」や「お願い」はありません。
仏式の起工式は、み仏とともにこれからの山あり谷ありの人生を強く明るく生き抜く心を大切に確認し、育てていく仏事、すなわち、仏(ブッダ=目覚めていく)事(事業、できごと、儀式)です。

皆さんも、この起工式の心を深く受けとめていただき、この人生を生きるという大事業を邁進してくだされば、大変、ありがたいことです。

以上は、広島県呉市の西教寺様のHPから、教えていただいたことをもとに表しました。改めて、岩崎ご住職に御礼申し上げます。

合掌
万行寺第十八世住職　釋静芳(本多 静芳)

※ご縁のあったあなた!　第一水曜午後四時から六時の法話会「ナムの会」で『親鸞様･御和讃』を、偶数月第三水曜午後六時半から八時半の「聖典勉強会」で『親鸞様･御手紙』を学びにいらっしゃいませんか?　お待ちしてます(会費はいずれも資料･茶菓代として千円です)。
「ナムの会」は一月と十二月は休会します。